

島田 隆 委員

## 「観光政策はシンガポールに学べ!？」



したことだろう。

既に2009年には米系資本のラズベガス・サンズ社（ベネシアンホテルで有名）がマリナーベイでの出店を決定、次いで2010年にはマレーシア系資本のゲンティン・インターナショナル社がセントーサ島でのカジノの営業権を獲得した。加えて同島の総合リゾート計画（北側部分の約34・3万㎡の場所）では核施設となる「ユニバーサルスタジオ」を始め、新たに「ハードロック・ホテル」を含めた6つのホテル（総計約1800室）が2010年以降順次開業予定である。

このようにまさに国家レベルでの観光開発に尽力する同国に比べ、商業活動には規制を加え、外国人観光客誘致にもイマイチ消極的？な我が日本。

少しはシンガポール政府を見習って欲しいと思う今日この頃である。

### 島田 隆（しまだ たかし）

元大手婦人服専門店バイヤーから西武商事に移り、主に新規開発から運営業務全般を歴任し、同社が運営する「本川越ペペ」支配人を経て現在開発部マーケティングマネージャー。98年より国内有力デベロッパー20社が参加する「商業施設連絡会」の事務局を務め、独自企画による定例会、国内・海外SC視察を通じ同業他社との交流も深い。

中国を中心に近年成長著しい経済発展を続けるアジア周辺諸国だが、昨年シンガポールに行つて以来、この国の政治、経済そして今後の流通ビジネスの動向に注目している。

この国の特徴は金融政策などでは先進国である欧米の経済合理性を大胆に取り入れる一方、都市計画の策

定に関しては中国古来の「風水占い」を用いるなど、政治・経済活動の様々な局面で古さと新しさが垣間見える部分にある。

またこの国を語る上で重要な観光産業の要として、商業とレジャー産業の発展に国家を挙げて尽力しているところも大きな特徴だろう。

一例を挙げれば、毎年5月の第4週から7月の第4週の約2ヶ月間にかけて行われる「Great Singapore Sale」があるが、この期間中はシンガポール全土の商業施設が全てバーゲン一色となる。

特にショッピングゾーンのメインとなるオーチャード通りや、マリナーベイ周辺の主要商業施設は、セーブル初日から数日間の営業時間は夜12時迄のロングラン営業となる。

さてあまり知られてはいないが、同国に出店する店舗は必ず何らかの

形でこのセールに参加することを義務付けられており、拒否すれば実質的な営業活動は不可能となる。

これは商業DV以前に国家自身が一企業の営業活動にまで口を出すと、いうスゴイ話ではあるのだが、この辺が北朝鮮と並ぶ「強権国家」と揶揄される所以かもしれない。

しかし、ここまで徹底するのも、近年成長著しい中国や隣国のマレーシア、そしてドバイ（UAE）の経済発展と観光客の大幅な増加に対する危機感が背景にある。

そんな事情からか、来年9月には念願のF1グランプリの誘致に成功、F1史上初となる「夜間のストリートサーキット」（市街地走行）での開催が決定した。

また同国の大きな話題と言えば、長年その開発を巡り賛否があった2ヶ所のカジノ建設が昨年正式に決定



オーチャード・ロードにあるSC「パラゴン」（シンガポール）